

誕生の命。立教新座中学入学式祝辞

少しの時間目を閉じてください。

まぶたの奥で、想像してみてください。

君たちの生まれた日のことを。

生まれた日のことですから、君たちに記憶があるはずがありません。

でも君たちは、その記憶がないにもかかわらず、その日を思い出すことができるはずです。

私は、今66歳ですが、66年前のことを想像することができます。

母の顔を、嬉しそうにのぞきこむ父の顔が浮かびます。名前をどうしようかと悩む父の顔が浮かびます。ベットでほっとした表情の母の顔が浮かびます。

「ご苦労さん」と父が母に言っているような気がします。

君は、大きな声で泣いています。

看護婦さんが、「男のお子さんですよ」と、やさしく言っています。

君たちは、きっと自分の生まれた時の写真を持っているはずです。その時の顔を思い出してください。

白い産着を着た君の瞳は、今と同じように少しまぶたを閉じているかもしれません。

君たちそれぞれに少し違いがあるかもしれませんが、その時のことに大きな違いはありません。

そこには君たちの輝ける命の誕生がありました。両親をはじめ、周囲の祝福がありました。このことは、ここにいるすべての人に共通していることです。

私はまず君たちがこの世に生を受け、今ここに元気で居ることに、謙虚に、互いにおめでとうと言いたいと思います。

命への祝福と感謝は、あらゆる人に共通のものです。

互いが、互いに命の尊さを心に刻むことが、入学式という始まりにまず確認することです。

入学式というのは、始まりの時です。原点に、立ち戻ることではないかと思えます。

それから、12年間、君たちは、そのまぶたを大きく見開き、色々のものを見てきました。悲しいことも、嬉しいこともあったでしょう。自信を持ち、自分を誇りに思うこともあったでしょう。心躍り、有頂天になったこともあったでしょう。学校からの帰り道、泣きながら帰ったこともあったでしょう。

私も、今、君たちと一緒に、泣きじゃくった日のことを思い出します。友達を傷つけたこと、いじめられたこと。思い出したくないことも思い出します。

今までの思い出を大切にすることも大事です。過ぎ去ったことをいとおしく

思うことも、新たな出発に大切なことです。

しかし、私はそれ以上に、新たな出発には、過ちを、新たな心で変えていくことが、大事なことであると考えます。

動物は、過去のことを本能的に忘れることはありません。人間も同様です。しかし、動物は、過去を意識して忘れることは出来ません。人間は、自分の力で、過去の失敗や過ちを正すことができます。

動物は、消しゴムを使うことが出来ません。人間は消しゴムを使い新たなページを作ることができます。

自分が成長とともに持つ責任とは、新たな自分を作り上げて行くことです。

人を傷つけたことを忘れてはなりません。しかし、その時の自分から、新たに生まれ変わらなければなりません。そんな、自分とは、きっぱりと離れましょう。

生まれた日のことを、互いにその日が大切な日であったことを、もう一度思い出し、命の大切さを深く重く感じあいましょう。

私は、絶対にいじめを許しません。

人間は人間として、あらゆる暴力を許してはなりません。

今、この時、命の大切さを強く思います。

友達を思いやり、私たちが互いに助け合う心を持つことが、春浅い被災地の君らと同じ時を迎える諸君の悲しみに寄り添う責任でもあります。

夢と希望にあふれた入学式を、迎えようとして迎えることのできなかつた、友人たちの思いをしっかりと、胸に刻んでこの時を迎えたいと思います。

被災された土地での入学式も報道されています。皆さんは、どのような気持ちでその画像を見ましたか。私は、その画像を見て勇気づけられました。皮肉なことのようにも思えますが、被災者の皆さんを少しでも勇気づけることができたらと思っている自分が勇気づけられたのです。皆さんと同じに私も悲しみや苦しみを抱えています。今の日常がどんなに大切であるかを強く考えさせられたのです。

素直に静かに今の喜びをかみしめたいと思います。

今日から、君らの新たな人生が始まります。

真新しい白いページを共に開きましょう。

私たち教職員は、君たちの、大きな希望の手助けになりたいと考えています。共に新たな時間を歩みましょう。

最後に、君らを慈しみ、今日の日を迎えた保護者の皆さんに、心からの祝意と歓迎のあいさつを申し上げます。

立教新座中学校 校長 渡辺憲司